英語E通信
まなび！net
Vol.05
2022.02
秀学社

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践紹介

１人１台のタブレットで単語学習を効率的に！

札幌市立真駒内中学校
石岡　達朗

はじめに　皆さんは、１人１台のタブレット端末を授業でどのように使っていますか？　秀学社のワークブック『E-PLUS』には、QRコード読み取りで効率よく取り組める、単語の音読練習、単語ドリル、文法ドリル等がついています。この記事では、単語ドリルの実践を紹介します。

1　タブレットに親しむ環境づくり

本校では、生徒は朝登校すると、タブレットを開いて健康チェックを入力します。下校時まで手元において、授業ですぐに取り出して使えるようにしています。学年や学級のページを共有していて、教師が授業の課題や行事のアンケート等をそこに投稿し、生徒が回答したり、意見交流をしたりしています。アンケートは紙のような集計の手間がなく、その場でグラフ等で結果を表示できて便利です。手元において活用して、慣れ親しむ環境づくりが大切だと感じています。

2　『E-PLUS』のQRコードで、単語の音と意味を素早くチェック

（1）単語ドリルで、単語の音と意味を、ゲーム感覚で効率的にチェック

単語ドリルは、単語が表示されると音声が流れ、意味を選ぶ４択問題が表示される形式です。紙で読んだり書いたりするより、効率よく学習できます。

自己表現で使う「発信語彙」は、話したり書いたりしながら身につける必要があります。しかし、教科書に出てくる大多数の語彙は、つづりが書けなくても音と意味が分かれば良い「受容語彙」です。コミュニケーションに必須な「発信語彙」を確実に定着するためにも、これらを区別して指導することが重要です。

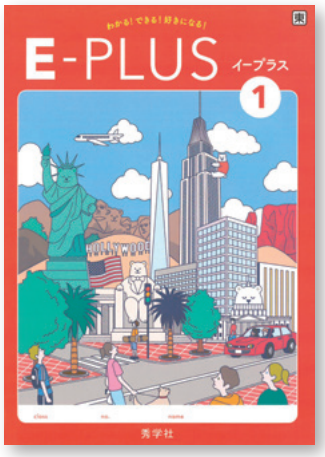
『E-PLUS』の単語ドリルでは、「受容語彙」の音と意味を同時に、とても効率的にチェックできます。

正解すると、中央の円グラフの％が上がっていく仕組みも、達成感があって良いと思います。間違えたものを再度出題してくれる「弱点克服」コースもあります。授業の中で、話したり書いたりとはまた違った活動として、授業のテンポを変えるアクセントとしても使えると思います。活動の「選択肢が一つ増えた」感覚です。

（2）タブレットでQRコードをスキャンするにあたって

次ページのプリントを使って、操作を確認しています。ログインからスキャンまでの流れを、操作に慣れるまで、何度か練習します。操作に慣れると１～２分でドリルに入り、授業で５～10分の時間があれば実施できます。

実際に体験していただくため、単語ドリルのQRコードを一つ載せました。
2年生Unit3の単語です。ぜひチャレンジしてみてください！



最後に　QRコードの単語ドリルを使って、単語の音と意味を効率良くチェックする実践を紹介しました。今回の実践のように、タブレットの使用が有効で活動の一つとして定着したものもあれば、結局アナログの方が良くて、アナログな方法を続けているものもあります。子どもたちは、新しい方法をすぐに使いこなします。私たち教師が、従来のやり方に固執せず、まずやってみて、試行錯誤しながら便利なところを取り入れ、授業を改善していくことが大切だと感じています。

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

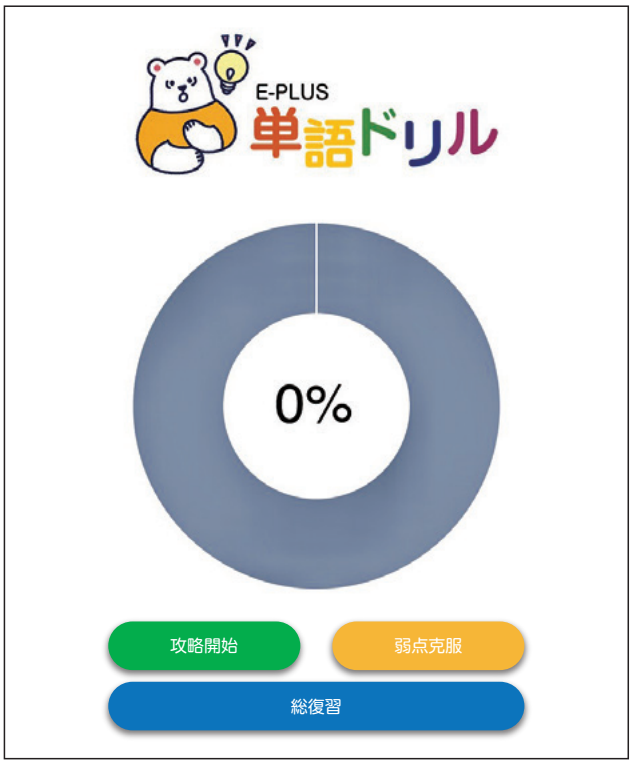
■秀学社は中学校の英語教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、
秀学社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。

秀学社HP
https://www.shugakusha.co.jp/

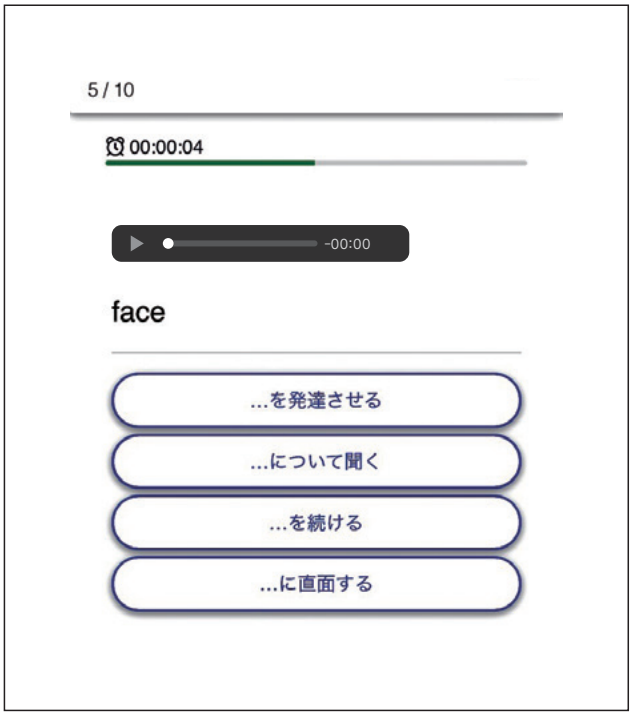
ワーク　E-PLUS 単語ドリル

QRコードをスキャン。
Google → 拡張機能[ ] → The QR Code Extension → Scan

1．攻略開始を選択。

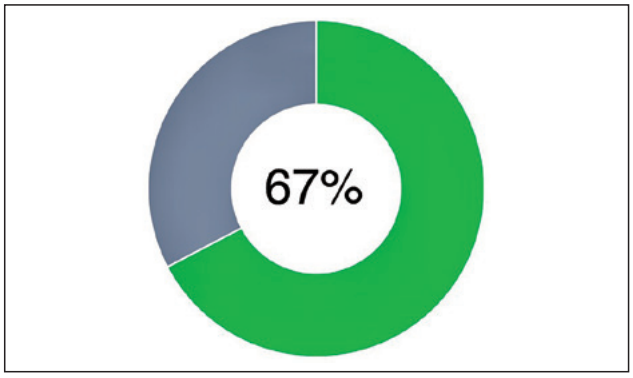
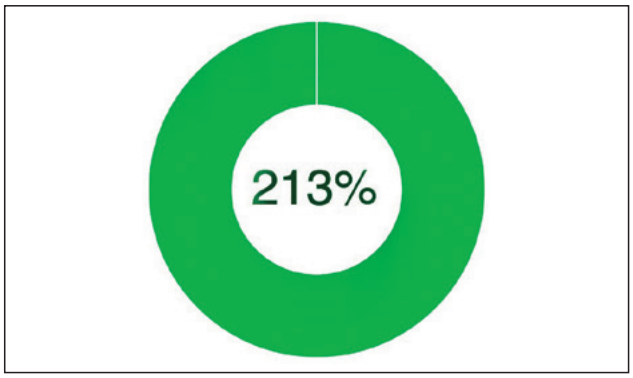


2．単語の意味を答える４択問題。
正しいと思う答えを選ぶ。



3．10問くり返すと、結果が出る。
もう一度を選択。

4．１～３をくり返す。
正解すると中央の％が上がっていく。



5．Unitの単語が一通り終わると、
攻略開始を押せなくなる。
弱点克服か総復習を選んで続ける。
200％をこえたらゴール！